

みどりの子

令和8年2月号

所沢市立荒幡小学校
校長 小林 雅行

寒さに負けないで

暦の上では間もなく春を迎えますが、まだまだ寒気の厳しい日が続きます。本校を含め、市内全域でインフルエンザを中心とした感染症が広まり、学級閉鎖となっている学校が急激に増えています。手洗いやうがいの励行、早めの医師の受診や休養など、共に気をつけていきましょう。

季節柄、雪の話題が各地から聞こえてきます。特に今年は雪の量が多いようですが、この最も寒さが厳しい時期に、その地方ならではのニュースがあります。

越後湯沢地方では、雪の上に織物や白の布地を広げてさらす「雪さらし」が行われます。雪の上に数日さらすと紫外線と水蒸気の化学変化による漂白作用で布の色素が抜け、鮮やかな色に戻るというものです。また、上越・妙高地方では香辛料「かんずり」に使う唐辛子の「雪さらし」が行われます。半年間塩漬けされた唐辛子を雪の上にまき、3、4日さらすと雪の水分を吸収して塩分が抜け、まろやかな味になるといいます。それに麹やユズなどを加え熟成させて「かんずり」を作るのだそうです。真っ白な雪の上に広げられる色とりどりの布や真っ赤な唐辛子。そうした印象的な光景が3月頃まで続くと、やがてこの地方にも春が訪れます。



そのような気持ちで本校の敷地を回っていますと、いくつかの木々に蕾が出始め、春に向かって着々と、確実に準備をしているんだなあ・・・と、うれしい気持ちになりました。

寒さが厳しい時季ですが、冬季オリンピックの金メダリストで、2022年にプロに転向した羽生結弦選手は以前、次のように言っていました。

「負けてたまるか」という怒りの感情が原動力になる

「負けても悔いはない」は嘘。勝てない試合が楽しいわけがない

「自分が負ける勝つ」ではなくて、「自分が今、高みに立とうとしている」ことが大事

荒幡小学校の児童の皆さんには、この寒い中でも縄跳びやボール遊びなど元気に身体を動かし、歓声を響かせて校庭を駆け回っています。また、2月10日の大なわ大会に向けて、各クラスで日々練習に励んでいます。このがんばりを継続して、この季節を元気に乗り切っていきましょう。

令和7年度も残り2ヶ月を切りました。学校では子供たちの健やかな成長のために、教職員一同全力で指導してまいります。引き続き、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。